

(電子メール施行)
農技第1261号
平成27年7月22日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第3号を発表します。

平成27年度病害虫発生予察予報 第3号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	平年並	平年並
	紋枯病	平年並	やや少
	縞葉枯病	やや多	平年並
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	セジロウンカ	平年並	やや少
	トビイロウンカ	やや少	少
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	イネツトムシ	やや少	少
	コブノメイガ	やや少	やや少
	斑点米カメムシ類	平年並	やや少
野菜共通	ハイマダラノメイガ	平年並	やや少
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	やや少

* 気象の概況 近畿地方 1か月予報

(7月18日から8月17日までの天候見通し)

平成27年7月16日

大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

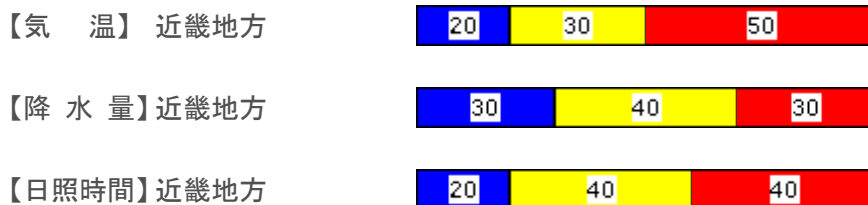
期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

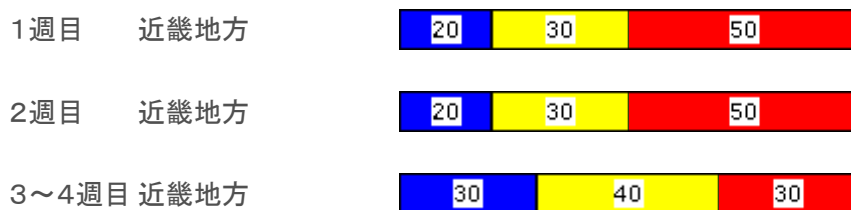
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例:  低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月18日(土)～ 8月17日(月)
1週目 : 7月18日(土)～ 7月24日(金)
2週目 : 7月25日(土)～ 7月31日(金)
3~4週目 : 8月 1日(土)～ 8月14日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場（加西市、朝来市）の調査によると発病は確認していない。

イ 7月上・中旬に実施された病害虫防除員、農業改良普及センター発生予察調査によると、52地点425ほ場中65ほ場で本病の発生を確認した。発生現況は、県北部では発生は少なく、県南部では平年並であったが、西播磨地域で葉いもちが程度別調査で病斑がやや目立つほ場も認められた。

ウ ほ場で病斑が認められた場合、穂いもちの多発生につながる恐れがある。

エ 1か月予報によると、期間の前半は、気温は平年並からやや高く、降水量は平年並みである。日照時間も平年並と予想され、また7月20日に近畿地方は梅雨明けが発表されたことから、発生は平年並みで推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所など水田内に入ってよく観察し、いもち病が発病していないかを確認すること。また、箱施用薬剤は施用後、概ね2か月程度で効果が低下する。多発している場合は、以下の対策を実施する。

(1) 治療効果の高い薬剤であるカスガマイシン・フサライド剤（商品名 カスラブサイド粉剤DL等）、フェリムゾン・フサライド剤（商品名 ブラシン粉剤DL等）等で防除する。

(2) 薬剤を散布する際は、無人ヘリコプターによる空中散布薬剤を含めて使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守すること。

(3) 薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【紋枯病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場（加西市、朝来市）の調査によると発生を確認していない。

イ 7月15日の加西市（県立農林水産技術総合センター）における茎数は、短期キヌヒカリ・普通期ヒノヒカリいずれも平年を下回っている。

ウ 1か月予報によると期間の前半は、気温は平年並からやや高く、降水量は平年並みである。日照時間も平年並と予想されている。このことから、平年並みに発生すると考えられる。

3 【縞葉枯病】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬に採集した県内のヒメトビウンカの同病ウイルス保毒虫率は、平均3.1%と昨年と同様に高い水準で推移しており依然として注意する必要がある。

イ 7月上中旬から、発病株が散見されはじめ、今後増加すると考えられる。

ウ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、発生はこのまま推移すると考えられる。

4 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場（加西市・朝来市）における払い落とし調査では第2世代虫の発生が認められている。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、本虫の密度増加が進むと考えられる。

5 【セジロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の加西市場内ほ場調査結果によると、捕虫網によるすくい取り10回振り当たり虫数1頭(平年30頭)とやや少なかったが、飛来は予察灯、本田ともに広い範囲で認められている。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、発生は増加すると考えられる。本虫は「夏ウンカ」として知られ夏季に増殖するが、盛夏以降増殖力は低下する。

6 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯への飛来、県下各地域の本田での成虫は確認されていない。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、飛来があった場所では繁殖が進むと考えられる。

7 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場、予察灯（加西市）や他の地域（病虫害防除員、農業改良普及センター調べ）でも発生を確認している。例年8月以降密度が急増しており、今後広域で発生することが予想される。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、本

虫の密度増加が進むと考えられる。

8 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場調査によると被害（ツト）の発生は確認していないが、例年8月以降に発生がみられる。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、本虫の発生に妨げになる要因は特に考えられず、今後の発生が予想される。

9 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場調査では発生は確認していないが、セジロウンカ、トビイロウンカとともに成虫が飛来している可能性が高く、今後の発生が予想される。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、飛来次世代の発生が進むと考えられる。

10 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の県予察ほ場の捕虫網によるすくい取り調査、県下3ヵ所の予察灯においても、アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメの発生を確認している。

イ 農業改良普及センター調査においても本田すくい取り調査で発生を確認している。

ウ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、本虫の発生の妨げになる要因は特に考えられない。

(3) 防除上の留意点

ア 水稻ほ場では、カメムシ類の生息場所となる畦畔雑草を早めに刈り込むなど管理を徹底する。

イ 穂揃期の防除を徹底する。

ウ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

野菜共通（アブラナ科野菜）

1 【ハイマダラノメイガ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 加西市における誘致植物（クレオメ）では、例年に比べ発生はやや遅く、7月中旬現在、発生を確認していないが、例年7月下旬以降に発生が認められている。

イ 1か月予報によると、降水量は平年並、気温は平年並～高いと予想されおり、本

虫の発生の妨げになる要因は特に考えられず、今後の発生が予想される。

果樹共通

1 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬までのフェロモントラップ（加西市、朝来市）誘殺数は平年に比べ少ないものの、7月中旬以降の誘殺数（朝来市）では急増が見られており、本虫の活動が活発な時期を迎えていると考えられる。

ウ 発生量は平年に比べやや少ないと予想されるが、活動の活性化に伴い果実加害が増えるので注意すること。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページでもご覧になれます。
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)